

第3回大網白里市道の駅整備検討委員会 議事要旨

議 事 概 要	
名 称	第3回大網白里市道の駅整備検討委員会
年 月 日	令和6年5月29日（水） 13:30～15:30
場 所	保健文化センター 3階ホール
出 席 者	【委 員】 14名中11名出席（名簿順） 委員長 寺原 譲治 副委員長 加藤 文男 委 員 久我 一雄 委 員 山野辺 昌浩 委 員 星野 八千代 委 員 内山 信男 委 員 市東 剛 委 員 安川 覚 委 員 齋藤 壽彌 委 員 今井 健太 委 員 小西 一裕 【事務局】 企画政策課 課 長 飯高 謙一 副課長 久保 崇 班 長 齋藤 友康 副主査 鈴木 公治
欠 席 者	委 員 内山 充弘 委 員 加藤岡 美佐子 委 員 手塚 智仁
傍 聴 者	15名
議事等の概要	議 事 ①ワークショップの報告について ②コンセプト及び基本方針について ③アンケートの実施について

発言者	発言内容
A 委員	次第１ 開 会 ・事務局より会議成立の報告 次第２ 委員長あいさつ ・寺原委員長より挨拶 次第３ 議 事 議事① ワークショップの報告について ・事務局より資料１、資料２、資料３を用いて説明 《質疑応答・意見》 資料３の【強み×脅威】において、「白里の歴史文化を活かした観光」や「白里ブランドをつくる」とあるが、これは白里地域に特化するということなのか、大網白里という大きな括りの中で実施していくのか考えを伺いたい。
事務局	現状では白里地域の活性化を念頭に置いており、白里の歴史文化を活かすこと、白里ブランドをつくっていくことを考えております。しかし、大網地域等にも様々な歴史文化があることから、これらを併せて発信できるように取り組んでいきたいと考えております。
寺原委員長	資料３の内容は、白里地区の課題・魅力・強みなど全般的な話題を中心として、白里地区と大網地区の両地区で行ったワークショップの結果をまとめたものであり、必ずしも全てが道の駅に直結したものではない。また、色々な意見が出ているが、全て実現可能というわけでもない。可能性としてこのようなチャンスや機会、強みがあるということと認識している。
寺原委員長	議事② コンセプト及び基本方針について ・事務局より資料４を用いて説明 《質疑応答》 B 委員に資料４の３、道の駅制度の概要について補足いただけることがあればお願いしたい。特に、P12（６）の道の駅の第３ステージについて、防災の他、色々な要素が加わっているようであるがいかがか。

B 委員	ワークショップや本検討委員会等でも挙げられているとおり、海岸地帯の防災について意識が高く、本方針でも防災機能を充実させる考えを示している。そこで、資料 4 の P10 にある〈休憩機能〉〈情報発信機能〉〈地域連携機能〉の輪に、〈防災機能〉を追加しても良いと思われる。 資料 4 の P12 の「道の駅」第 3 ステージとは、国土交通省が示しているものである。このステージが進むにつれ、道の駅に求められる機能が増え、規模が大きくなってしまっており、これを追うことにあまり意味が無いと考えている。大網白里市として、軽快で皆さんに愛される道の駅とするのか、観光を支えるような集客拠点となる道の駅とするのかを十分に考えるべきである。個人的にはシンプルな形で、経済的に実効性が上がる仕組みを取り入れていくべきと考えている。
寺原委員長	資料 4 の P11 (4)、整備方法に「一体型」と「単独型」がある。「一体型」では、道路の付属物として道路管理者が整備する部分と市町村が整備する部分があるとのことだが、わかりにくい。
B 委員	一体型とは、道の駅を県道沿いにつくる場合に、道路管理者である県が駐車場やトイレ、場合によっては情報発信施設を整備し、市は地域活性化のための施設を整備する、というように県と市が一体となって道の駅を整備する方法である。国道の場合は、国がその役割を担うことになる。
寺原委員長	白里地域の海岸部では、主要な道路は県道となっているが、県と一体型で整備することを前提としているのか。 最近の傾向として、一体型の整備がされているのか、全部単独型の整備となっているか把握していれば説明願いたい。
事務局	白里地域で道の駅への集客を考えた場合、なるべく交通量が多い県道沿いが望ましいのではないかと考えておりますが、千葉県では平成 15 年以降、一体型の整備は実施していないと聞いております。しかし、整備費用の抑制等を考えると、市としては、千葉県に一体型整備を要望しながら検討を進めていきたいと考えております。
寺原委員長	道の駅の機能で「防災機能」が注目されており、その点にクロ

	ーズアップしていきたい。津波避難施設に限定することなく、幅広く検討していきたい。 なお、道の駅の枠組みで考えた場合、資料４の P11（５）に記載の施設が備わっていれば道の駅として登録できる。それにより、補助金を受けたり、道の駅の看板の設置、道の駅の枠組みの中での宣伝等が可能になるということによろしいか。
B 委員	軽々には言えないが、道の駅の看板を掲げることで 10 万人単位での集客効果があるとも言われている。
寺原委員長	資料４の P14 に道の駅の活用方法として、様々なアイデアを出していただいております、これが道の駅に必要な「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」など万遍なく、加えて「防災機能」もカバーしていればよろしいかと考えている。 なお、子供向けの施設（子育て支援）に関する記載があるが、道の駅ではあまり見かけないように思われるがいかがか。
B 委員	道の駅とみうら枇杷倶楽部では、現在の大規模改修に併せて、子育て支援として、おむつ交換や授乳ができるよう、授乳室を増設している。子育て支援といっても、保育園の様な機能までではないと考えているが、旅先で困ることがないように工夫してあげるべきと考える。
C 委員	私が見た道の駅の中では、地域情報等を発信するための施設は大々的に設けられておらず、来訪者もそれを求めているように感じられる。情報発信のための施設にあまりお金をかけることに疑問がある。 様々な課題が挙がっており、これを全て解決しようとするとうる相当な施設規模になり、お金も相当かかってくると思われる。解決すべき課題に優先順位を付け、優先順位が高いものに特化した施設とした方が市民の皆様にも理解を得やすいのではないかと。 事例として、人口減少や少子高齢化という課題がある中、道の駅ができたことにより、人口増加や定住促進につながったというようなものがあればお聞かせ願いたい。
事務局	課題と活用法については、ワークショップで出された意見をまとめたもので、道の駅の整備の際に全て盛り込むのは現実的に難しい部分も出てくると思われます。できる範囲の中で、これらの

	課題が解決できるような整備が求められていくものと考えております。 なお、事務局としては、これらの課題に対し、必ずしも大規模な施設（ハード）を作って全て解決しようということは考えておりません。むしろ、課題解決には、仕組みづくり（ソフト）が重要であり、ハードとソフトを組み合わせることで課題を解決していくことを考えております。 道の駅の建設に伴い人口が増加した、という情報は持ち合わせていません。ただし、人口減少が進むことが確実な情勢の中、白里地域への交流人口を増やすことにより、地域が潤う・活性化するといったところを目指すべきと考えております。
D委員	白里地域を活性化することは、市全体が抱えている大きな課題の一つと思っている。白里地域に道の駅を整備することにより、白里地域全体が活性化され将来的に発展するならば、大網白里市全体のイメージアップに繋がるのではないかと。今回もここまで理論整備されたので、スピードアップして、色々な課題を解決しながら前向きに進めていただきたい。
E委員	資料3の【強み×機会】の項目にある、天然ガス、ヨードを利用した温浴施設は実現可能なのか。ヨードはこの一帯が一番採れることから、そういうものを活かした施設があれば有名になりインバウンドにも繋がってくるものと思われる。
事務局	道の駅むつざわでは、天然ガスを利用した発電機の廃熱と、天然ガス採取後のかん水を利用し、効率よく温浴施設を運営している実例があります。ただし、実際にそれが大網白里市に適したものかどうかの検証はしておりません。
寺原委員長	様々な課題が提示されているが、資料4のP14にある項目だけで全て解決できるものではなく、道の駅はその一歩として使う。道の駅は施設ができれば終わりではなく、施設を媒介としてソフトを使い、どのように問題解決の道筋を付けていくのか考えなければならぬ。 道の駅ができたことにより人口が増えた、雇用が増えたということが、明示的に統計で出てくるまでいっていないと思われる。ただし、道の駅を拠点にして話が進むということは確かにある。

寺原委員長	情報発信機能は地味ではあるが、どこの道の駅にも必ずコーナーがあり、チラシ、パンフレット、ポスター、ディスプレイ等が設置され、地域の観光や文化財の情報等が入手できる。目立たないが、道の駅の非常に重要な機能であると考えている。 防災に関して津波の心配が挙げられているが、白里地域では津波対策が中心になると考えてよろしいか。津波以外の災害は、課題として意識されていないのか。最近の防災道の駅における防災機能は、災害時に緊急車両等が優先的に使えるなど、様々な工夫がされている。道の駅は能登半島地震の際にも活用されており、防災機能が見直されているところと認識している。
事務局	海岸に近いということで津波対策は必要ですが、津波に特化した防災機能のみとすることは考えておりません。昨今では、台風やゲリラ豪雨等の災害もあり、一次避難場所や防災品の備蓄等により近隣や訪れた方が安心して避難できる場所の提供も必要かと思いい記述させていただいております。
寺原委員長	道の駅のコンセプトと整備方針は今日決定するのか。本日提示された内容を良く考えていただき、次回以降、最終決定するのか。
事務局	道の駅のコンセプトに関しては、本日決定いただきたいと思います。また、整備方針に関しては、今後の会議の中でその都度何かあれば修正していくことを想定しております。
B 委員	本文中に、場所を示す言葉として大網白里市、白里、地域、地場と複数出てくるが、整備方針に書かれている「地域」はどこを指しているのか。
事務局	大網白里市は、大網地域・増穂地域・白里地域の大きく3地域に分けられますが、その中の白里地域ということで表現しております。
B 委員	場所の特定は非常に重要だと考えている。この「地域」については、かなり大きく考えれば「九十九里地域」、狭くても「市域」ぐらいの考え方で位置づけ、これからの文章を書き込んでいった方が良いのではないか。道の駅ができると地域を越えた広域の連携ができてくるが、「白里地域」だけにこだわると、他の地域と連

	携した仕事の障害になってしまう。大きな地域の中で物流を動かしながら、大網白里市が、また白里地域がもっとも恩恵を受けるような運営をしていくことが正解と思う。 《採決》 ・道の駅のコンセプトと整備方針について、総員賛成により承認。 なお、整備方針については、今後の検討の中で、必要に応じて適宜修正を行う。 議事③ アンケートの実施について ・事務局より資料 5 を用いて説明 《質疑応答》 アンケートは自由記述ではなく、なるべく多めに選択肢を用意したうえで、選択式にした方が集計しやすいのではないか。 Q3 と Q4 は、あまり変わらない答えがくるのではないか。 城西国際大学の学生の話し合いについては、学生に大網白里市を知ってもらってからであればよろしいかと思う。
寺原委員長	
C 委員	道の駅の整備時期は、今の小・中学生が社会人になる頃になると思われる。小・中学生に直接アンケートをとることができないか。
事務局	担当課と相談させていただきます。
寺原委員長	アンケートの回答数の目標はあるのか。
事務局	回答数の目標は定めていないが、市内の保育所や幼稚園の保護者については QR コードを活用し、なるべく全員に回答いただきたいと考えております。またアンケートをできるだけ集められるよう募集期間を設けたいと考えております。 《採決》 ・アンケートの実施について、総員賛成により承認 次第 4 その他 次回、第 4 回の委員会は、アンケート結果の集計後、概ね 8 月
事務局	

A 委員	中の開催を予定しております。決まり次第、委員の皆様にご通知させていただきます。 《質疑応答》 今後の進め方についてどのように進めるかがいたい。道の駅の必要性やコンセプトが決まってきたが、海外ではこの時点で設計建築会社から工事費の概算をもらい始めることもある。 アンケートについて、道の駅の必要性について聞くことはしないのか。
事務局	今後、道の駅基本構想の策定に向けて、道の駅の機能や整備内容等を確認したうえで、立地計画の内容について盛り込んでいきたいと考えております。また、どの程度のものが出せるか分かりませんが、計画に向けた条件の整理として金銭面に係る部分も盛り込んでいきたいと考えております。その上で、概ね来年の3月～4月を策定目標としております。 なお、次のステップである設計建築会社への委託等は、基本計画の中で、もう少し具体的な内容を確認した上で示していければと考えております。 アンケートについては、今後道の駅を建設していくにあたり、どのような機能や施設を市民が求めているか確認するために実施するものです。道の駅の必要性をうかがうアンケートではございません。
B 委員	道の駅の整備にあたり、今後、各論の中で一番難しいのが、誰が運営、誰が経営するかである。それにより、大網白里市全体に成果を生むか生まないかの境目となる。最近では大手民間企業に丸投げする傾向が増えているが、それでは地元の生産者にとって販売する場が一つ増えたに過ぎない。今後、生産者が生き残っていくためにも、出荷経済型から消費経済型に進む・6次産業化に進むきっかけとして、道の駅の運営や経営のイメージを今から積極的に考えていただきたい。それが、規模の大小やかけるお金の多少に係わらず、成果につながると思われる。委員の皆さんにしてみれば市がやってくれる、市にしてみれば皆さんがやってくれるという事ではなく、自分がやる、ということで考え始めていただきたい。

	次第 5 閉会
--	-----------------------

以上